

目指す学校像	●学ぶことの大切さ・喜びを味わえる学校 ●豊かな心・健やかな体を育成する学校 ●あいさつを大切にしている学校 ●地域とともにある学校
--------	-----------------------------------------------------------------------

重点目標	1 市スマートスクールプロジェクト(SSSP)が目指す教育の実現に向け、「学びの改革」「教え方改革」「働き方改革」を推進する。 2 校内教育支援センター「SoLa(ソラ)る一む」の充実を図る等、誰一人取り残さない多様な学びを支える環境づくりを目指す。 3 学校運営協議会を通して、地域と学校の連携をより深める取組を模索し、新たな制度を創設する。 4 教職員一人ひとりの指導力を向上させるよう校内研修を充実する。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価			学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○スクールダッシュボードが本年度から本格運用される。 ○本年度から授業改善の観点から、「よい授業」から「学びの指標」に変更された。 <課題> ○スクールダッシュボードが円滑に運用できるよう、日課や実施方法について検討したり、効果的な活用方策を検証したりする必要がある。 ○生徒は授業を落ち着いて受けているが、知識の定着度や理解度に個人差があるため、各教科において基礎・基本の確実な定着を図り、学びに向かう力を高める必要がある。	○基礎学力の向上 ○学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した授業の実践	○平素の授業や家庭学習で、タブレット等を活用してスタディサプリやドリルパーク等に取り組み、個別最適な学びにより基礎学力の向上を図る。 ○スクールダッシュボードについて、本校における活用シーンやデータ取得等のユースケースを検討する。 ○タブレットを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む。 ○新たな学びの指標を意識した授業を展開し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図る。	○学びの指標の「先生が、基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」の平均が3.5以上(R5は3.4) ○学校評価保護者アンケート「お子様は、授業を分かりやすいと感じていますか？」の肯定的な評価が73%以上(R5は70%)						
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が、全国及び埼玉県平均を上回っている。 ○教育相談主任を中心に、さわやか相談室の利用等について、計画的で系統的な運営方針を教職員に周知して教育相談に取り組んでいる。 <課題> ○年間15日以上欠席している生徒は13.0%、「心と生活のアンケート」(令和5年度第3回)における面談対象者は、10.1%が相当している。 ○形式化・画一化された対応ではなく、個別かつ、それぞれの特性や環境に応じた柔軟で包括的な支援の実現が求められる。	○SoLa(ソラ)る一むの充実を図る ○個別的・包括的な生徒理解と支援の実現のためのアセスメントとPDCAサイクルに基づいた計画的な教育相談活動	○教諭・さわ相・養護教諭・SC・SSW・SA等が生徒の情報を共有し、生徒理解に向け連携・協働する。 ○3類4層構造の教育相談を実践する体制を強固にする。 ○支援者である教職員一人ひとりの教育相談活動に関する知識・技術・態度それぞれについての改善・向上を目指し、市教委等の校外から専門性を有する講師を招いた研修等を行う。 ○生徒自身の自己実現や援助希求能力の育成のための、他職種・各分掌と連携した道徳やいのちの支え合いを学ぶ授業等の実施	○スクールダッシュボードの心の天気アンケート等のライフ・ログを活用して、生徒のリアルタイムな実態を把握できたか。 ○一元的な情報の管理と、積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協働的な組織によりSoLa(ソラ)る一むを運営できたか。 ○教職員一人ひとりの教育相談に関する知識・技術の習得と向上を目的とした校内研修が実施できたか。 ○他職種・各分掌と連携した道徳やいのちの支え合いを学ぶ授業等を実施することができたか。						
3	<現状> ○学校運営協議会では、地域の力を生かしてコミスクの更なる充実に向け検討してきた。 ○With コロナを見据えた地域の様々な行事が実施される予定である。 <課題> ○全国学力・学習状況調査において、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が、全国及び埼玉県平均を下回っている。 ○部活動の地域移行に向け本校に関わる課題を精査し、学校運営協議会等の場で地域の声を取り入れながら今後について話し合う必要がある。	○生徒や教職員による地域の行事等への積極的な参加 ○学校運営協議会で、地域と学校の連携を深める新たな制度を創設 ○学校行事に保護者が参加する機会の増加	○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまな催し物について、生徒や教職員が積極的に参加できるよう、計画を立てて実施する。 ○学校運営協議会で、地域と学校の連携をより深める取組や新たな制度を創設するために熟議して、実施に向けた課題を精査する。 ○Withコロナを踏まえ、本校で実施される学校行事に多くの保護者が参観したり参加したりすることができるよう、各行事の計画を立てて実施する。	○「ふらばーるバレー」や「ふれあいフェスティバル」等の地域主催の行事に、教職員や生徒が参加できたか。 ○地域と学校の連携をより深める取組や新たな制度を創設し、実施することができたか。 ○土曜授業や学校行事(体育祭や合唱コンクール等)に保護者が参観したり、参加したりする機会を設けることができたか。						
4	<現状> ○タブレット等を用いた授業の在り方やICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となって校内研修を重ねてきた。 ○Canvaを用いた資料を作成したり、Teamsを活用して様々な場面でオンラインを活用したりする教員が増えるなど、スキル向上が見られた。 <課題> ○スクールダッシュボードを活用して、一元的に見られるようになる多様なデータを基に、エビデンスベースの指導やデジタルの優位性の活用による個別最適な学びと協働的な学びを实践できるよう校内研修を実施する必要がある。	○教職員のICT教育に係る授業改善 ○スクールダッシュボードの円滑な運用	○全国教員研修プラットフォームや人事評価面談の機会を利用して教職員に研修受講を奨励する。 ○教職員が夏季休業中等に実施される教育研究所の希望研修や、他校の授業研究会に参加したり、スタディサプリやミライシードのオンライン研修会に参加したりして、授業力の向上を図る。 ○エバンジェリスト等による「春里PCカフェ」を実施し、ICT(Canvaやミライシードやスタディサプリ等)を活用した効果的な授業や、学校ホームページの更新方法等に関するスキルを高める。	○80%以上の教職員が、スタディサプリやミライシードを活用した授業改善を行ったり、「春里PCカフェ」に参加したりして、新たな指導方法等で授業を実践したか。 ○教員が、担当する部活動や専門委員会に関して、学校ホームページを最新の状態に更新しているか。 ○スクールダッシュボードについて、活用シーンやデータ取得等のユースケースを検討し、実践することができたか。						